

ラジオきしわだ番組審議委員会第二十回議事録

開催日時 平成 26 年 8 月 22 日 14 時から 15 時

場所 ラジオきしわだ事務局

ご出席委員	永谷裕久 片山智信 近松健二 谷口真澄 芦田有香	ご欠席委員	杉本昇 西村静代
-------	--------------------------------------	-------	-------------

局長	八木雄一郎
事務局長	北野忠夫 同席
理事	片山陽子 同席

1 番組編成概要

番組審議委員長の永谷裕久氏が開会を告げ、八木局長より、4月から卒業や転勤などでパーソナリティのあきが出ていたところが、大体詰まってきたことを報告した。
例として、吉本クリエイティブ・エージェンシーの月亭遊方さんが7月より金曜日の19時から「月亭遊方のザツダン枕噺」を始め、また岸和田在住のブルドーザー商事も番組を持つ予定であり、その他稲田美紀さん、トムトム、ジャパンブランドなどの芸人さんが番組参加してくれていることを報告する。片山委員より「吉本の事務所を通さないのか？ ギャラについては？」と質問があり、八木局長より、事務所を通してのこと、吉本側からこの芸人を育てるということでOKをもらっていること、遊方さんにはこのメディアで全国版にしたい意向があるなどの説明をする。

2. ご審議頂く番組

八木局長より本日聞いて頂きご審議頂く二つの番組、金曜日午後7時～9時までの「月亭遊方のザツダン枕噺」と月曜午後10時半からの「トムトム・ジャパブラジオ」を紹介した。
月亭遊方さんの番組のこの回はたまたま八木局長が相手役として入っており、今後女性の相手役がつくことを説明する。

①「トムトム・ジャパブラジオ」については片山委員から「何をコンセプトにしているかわからない」というお話があり、八木局長よりこの時間帯を番組放送料として買ってもらった番組であることを説明するが片山委員長から「公共の電波を使うのであるから何とかすべき」とのご意見があり、局長から「もう2～3回聞いて変わらなければなんとかします」との返答をする。
永谷委員長からは「まず何名出ている番組か。最初に自己紹介とどんな番組かを紹介すると聞きやすいが、このままでは、年配の人にはこれではついていけないのではないか」とのご意見があった。
近松委員からは吉本の芸人さんの番組は、中田はじめさん、かいしさんなどもみんな同じ様に聞こえるという話があり、局長から中田はじめさんの「泉州っ子クラブ」では「なんでもラン

キング」「行ってきました」「吉本のうらばなし」などのコーナーがありメリハリがある、局側としてはコーナー分けをするように指導している、かいしさんの番組はコーナー分けはあまりできてないがと説明をする。近松委員より構成ではなく、喋り方、トーンがみんな一緒、イントロの話からとっかかり、出だしはみんな同じように聞こえるというお話であった。八木局長からは「今後注意をして聞いてみる」と返答をする。

永谷委員長より、リスナーの年齢層をどう見るかという質問があり、50才以上の方が我々のメインのリスナーだと考えているが、メールなどから20時台は50才以下の方が多くと考えると八木局長より答える。永谷委員長から若手は話のテンポが速い、年配のリスナーには聞きづらいことがある。若者の特性も生かしながら「棲み分け」をはっきりさせる方がいいのではないかとのご意見があった。

近松委員から八尾のFM局ではパーソナリティーがテレビカメラを持ち込み、放送の様子をブログやユーチューブで流しているというお話があり、局長よりラヂオきしわだでも稲田美紀さんなどは自分のフェイスブックで、地元情報、地元ネタを流していること説明する。他にもフェイスブックの内容を放送に取り入れているパーソナリティーも多いと説明。

②「月亭遊方のザツダン枕噺」については局長より遊方さんのキャリアは28年あり、この番組では本芸の落語はしない、芸風としては素人はいじらない、時事ネタをするということを説明する。近松委員より、落ち着いた番組になるのではないかとのお話があった。

永谷委員長からは芸風が解っているとファンが付きやすいが、落語があってもよいのではとのご意見があった。

3.番組放送及び番組に対するご意見

谷口委員よりラヂオきしわだはどの世代、どこをターゲットにしているのか。マスメディアの中でラヂオというのがどういう立場になるのか。音楽なら若いひとはラヂオでなくユーチューブでもいいわということになる。ラヂオきしわだが「これやで」という特徴が何なのかという質問があった。

八木局長より「おはきし」がそれであり、他の局にない特色もあり、続いている番組である。

そのほか永谷先生が出演してくださっている「チャウのオールディーズ」「Wao Kishiwada！」などであると答える。永谷委員長より、地方のFM局でこれだけ独自の番組を作り続けている局を知らない。ラヂオきしわだはその点すばらしいというお話がある。

八木局長より出演して頂いた方々から「楽しかった」「良かった」と聞くのが励みになるという話をし、「程さんのほのぼのキッチン」の「プロに聞く」のコーナーは特色が出ていると自負し、感謝しているという話をした。

芦田委員より番組の中でミュージシャンの紹介などで、ウィキペディアをそのまま使っていることが何回かある。トークにいれても本人の知識ではなくネットの知識である。人のはばのおもしろさはネットの知識を読むだけではでないと思うというご意見があった。

永谷委員長よりウィキペディアは情報源としては便利であるが、自分で消化して、自分のものにしてしゃべることが大事であるというご意見があった。八木局長より同じインターネット素材でも、上手に展開する芸も判ってほしい。情報源は同じでも表現が大切と考えている旨話した。

八木局長より、25年度の決算の報告があり、5月13日にダンプカーが競輪場への回線を切つてし

もう事故があり、インターネットでは大丈夫だったが、ラジオでは無音が長く続くことになってしまい、総務省から注意を受け、無音検知システムをつくるように、また非常時の規定をマニュアル化するよう指導があり、それらを進め、9月にはシステムの検証を受けることになっていることを報告した。時期が迫ってきた「祭り」の放送について、9月13日・14日は例年通り「あなたの町のだんじりはどこ？」を午前9時から午後9時までの放送する。また10月祭礼は10月11日・12日に放送を予定している。前回の番組審議委員会で「岸和田のことがわかっていない人」が放送をしているという指摘を受けたが、岸和田に住んでいる人がすべて祭りをわかっているわけではない、また祭りの当事者は祭りに参加しており確保に難儀していると返答をした。

次回の番組審議委員会を10月17日、午後2時からにすることを決め閉会した。

以上